



さんが

第一〇九号

令和三年

西暦 二〇二一年

春彼岸 三月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

お薬師さまの

修復落慶法要を行います



お正月のお便りでお伝えしましたとおり、薬師堂の修復が完了し、お薬師さま方がお帰りになりました。そして、春の施食会の日に、薬師堂の修復完成をお祝いする法要を、催すことといたしました。

三月二十四日、午後一時から、まず護持会の会計報告、続いて、いつもの施食会をおこないます。昨秋と同じように、お手伝いのお寺さまを減らしての法要です。

その後、仏像修理をしてくださいました、松久宗琳仏所様が、修復に関するご説明をしてくださる予定です。

そして薬師堂まで移動し、堂内にて法要をおこないます。当日はいちど本堂から外に出て、薬師堂の前にてお参りくださり、ご焼香をして頂くことになります。午後三時までには終わります。

お薬師さまは、左手に薬の壺を持っておられます。そのお薬で、あらゆる病気を治し、傷んだ身心を立ち直らせると信じられてきました。

お薬師さまは、東の浄土におられると伝わっています。西の浄土におられる阿弥陀さまと、ちょうど対になります。人が亡くなったとき、極楽浄土よりお迎えになるのが阿弥陀さまとすれば、人が生きているうちの苦悩を癒すのがお薬師さまといえるでしょう。

二十四日に限らず、お彼岸のあいだは、薬師堂を開けております。

この吉縁に、どうぞお参りくださいませ。みなさまに安心がもたらされますよう、心より念じています。



この三月三日、住職の子どもたち二人は、ぶじに大本山永平寺への上山を果たしました。一人前の和尚になるにはいくつかの階段があるのですが、今回はその大きな一歩を踏み出したと言えます。

永平寺は、鎌倉時代のはじめに開かれました。

日本に曹洞宗をお伝えになった道元禅師が、生涯の最後に、理想の道場として落ち着かれたところです。それから八百年近くたった現代でも、つねに百名を超える雲水がいて、道元禅師の決めたやり方にのっとって、修行の生活を送っています。

行脚姿の雲水



五月の連休明けくらいまでは手紙のやりとりも許されず、お寺に残った者は、永平寺におまかせするだけです。

順調にいけば、来年の秋くらいには、戻ってくる許しが出るかも知れません。

まだまだ先に思えます。それまで帰りを楽しみにお待ちくださいませ。

護持会費のお願い

護持会会員みなさまにおかれましては、いつも護持会費のお世話をいただき、厚くお礼申し上げます。例年の通り、このお便りに「会費のお願い」を同封しております。お名前や金額をご記入のうえ、ご納付くださいますようお願い申し上げます。

また、未納年度のある方や、先々の分までお納め下さっている方には、「〇〇年度まで頂戴している」旨を記入しております。

もしも間違いや、ご不明な点がございましたら、遠慮なくお寺までお問い合わせください。

ワクチンの接種も始まりましたね。

夏には、収束とは言えなくとも、これからの目処がたつてこないかなと、願っています。

東京オリンピック・パラリンピックも、気になるところ。開催にしても中止にしても、落ちていて受け止められるような気持ちでいたいと思います。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常

東運寺ホームページは→

京都 東運寺

検索